ひろまれ念仏

vol.8（ver3.0）

2019年　10月　発行
山中温泉　白鳳凰山　恩栄寺

ごあいさつ

今年も「報恩講」の季節がやってまいりました。浄土真宗の開祖・親鸞聖人のご命日を前に、各お寺、そして皆さまのご自宅で、親鸞聖人のご生涯と、私たちに遺してくださったお念仏のみ教えに出遇わせていただくのが、この「報恩講」と呼ばれる仏事です。

お寺のお斎では、毎年「小豆汁」を皆さまに味わっていただいておりますが、これは親鸞聖人が小豆がお好きだった、という伝承になぞらえたもの。「小豆汁」とともに、今年も皆さまと一緒に、私が仏さまに成るための教えを味わいたいものです。

◆法要のご案内◆

報　恩　講

●日　時●

１１月１日（金）午後２時（お逮夜）
午後８時（お初夜）
２日（土）午前１０時３０分（お日中）
午後１時３０分（大逮夜）
午後７時３０分（報恩講落語会）
３日（日）午前１０時～（ご満座）敬老の集い

●ご講師●

岡山県　光栄寺
佐藤知水　師

どうぞお気軽にお参りください。**恩栄寺**

お稚児散華

ご満座（十一月三日）のお参りでは、小学生の稚児がお内陣で散華をします。

報恩講お斎

２日のお昼は、おいしいお斎をお召し上がりください。

報恩講落語会

11月2日（金）夜7時半からです。

福井で人気の落語家、「**はやおき亭貞九郎**」さんをお招きし、楽しい夜のお座を勤めます。
皆さまのお越しをお待ちしております！

若坊守の子育て（られ？）日記⑨

編集後記

今年の報恩講を迎えると、私もいよいよ40歳の大台に乗ります。「不惑」とも呼ばれる年齢ですが……まだまだ迷いっぱなしの身、皆さまにもいろいろお力添えをいただきながら、精進したいと思います。
報恩講も、どうぞ皆さまお参りくださいませ！

ゼロから味わう仏教講座

第八回　苦悩を超えたその先に（涅槃寂静）

「諸行無常」「諸法無我」そして「一切皆苦」と、お釈迦様の目覚められた真実について見てまいりました。今回はその最後となる「涅槃寂静」という境地です。

「涅槃寂静」とは「涅槃」と「寂静」という二つの言葉からできています。「涅槃」とはインドの「ニルヴァーナ」という言葉を音写したもので、煩悩を滅して悟りの智慧を完成したことを意味します。それは生死を超えた境地でもあり、仏教の目指すべき目的地です。そしてそれは「寂静」、つまり静やかな安らぎの状態、真の安心の境地であることから「涅槃寂静」と呼ばれるのです。

これまで見てきた三つの真実と、この「涅槃寂静」を合わせて「四法印」といいます。それぞれの関係を見ていきますと、私たちの全ての思い通りにしたいという自分中心的な在り方こそが全てを苦悩に結びつける「一切皆苦」と見定め、「諸行無常」そして「諸法無我」という真実を見ていくことによって「執着」という自分自身の存在への強いとらわれから離れることで、自己中心的な心（＝煩悩）からも離れていくことができる。それによって至ることができるのが「涅槃寂静」という境地である、ということです。

論理としては、とても明快ですよね。このような見方は、第二回目で見てまいりました「四諦」という教えにも通じるものです。おさらいする意味でも、「四法印」との関係を見てみますと、次のようになるかと思います。

- **苦諦：私は苦悩の存在である**
  ↓「一切皆苦」
- **集諦：苦悩の原因は私の誤った物の見方にある**→「一切皆苦」
- **滅諦：しかし苦悩を超えた境地がある**→「涅槃寂静」
- **道諦：それは誤った物の見方を正すことで実現される**
  ↓「諸行無常」「諸法無我」

このように見てみましても、お釈迦様が説かれたことというのは、実にシンプルなことなのです。

そして、「涅槃寂静」という安心の境地に至った存在のことを「仏」と呼びます。この「仏」と成るための教えこそが、仏教という教えなのです。

しかし、実はここからが問題です。言葉にしてしまえば実にシンプルですが、ではどうすれば、私たちは自分が持つ誤った物の見方（＝煩悩）を離れていくことができるのか。その方法、そして涅槃に至る過程こそが、私たちにとって一番の問題となっていくのです。

次回からは、その方法についてを見ていきたいと思います。